

あぶくまの 10 の仕事体験・参考案

先生の願いの例：教科の学びを地域の仕事とつなぎ、子どもが条件を比べ、自分の理由で判断する経験をつくりたい。

対象・使う場面	小学校高学年・中学生・高校生を想定。学年と実態に合わせて、扱う条件や問いの難しさを調整する。
学びの流れの案	自分の初案を持つ、働く人の判断材料を知る、考え直す、変えた／変えなかった理由と次の問いを残す。
学校で検討すること	育てたい姿、既存の単元とのつながり、使える時間、子どもの関心、参加方法と安全条件。
資料の準備状況	公開資料を基にした 10 のモデル案。協力先の確約はなく、現場の条件・日程等は個別の調整が必要。

学校の願いと子どもの実態を出発点に、必要な部分を選んで使う参考資料です。10 案は実施前の構想であり、実施済みの仕事体験メニューではありません。

関心に合うテーマを一つ選ぶ

受入先・講師は候補段階です。教科、対象、時間は学校の計画と照らして調整します。

仕事のテーマ	子どもと考える問いの例
01 和算・測量	正確に測ることは、土地・水・道・暮らしをどう支える？
02 農業経営	限られた人手や条件で、どの農地をどう守る？
03 林業・木材活用	安全・費用・環境・使い道から、森をどう整える？
04 製造・技能継承	熟練者の気づきを、みんなが使える品質基準にできる？
05 建設・空き家再生	誰がどう使う建物にする？ 何を優先して直す？
06 商業・地域産品	地域のものを、誰に・何として・どう届ける？
07 観光・周遊	時間や移動の条件を踏まえ、誰向けの周遊にする？
08 地域交通	少ない人や車両で、誰の移動をどう支える？
09 介護・生活支援	本人が望む暮らしと、支える側の条件をどう両立する？
10 仕事を伝える ZINE	仕事の良さと大変さを、本人に確認して正確に伝えるには？

地域の課題を知ることと、自分が大切にしたいことを考えることをつなぎます。子どもに特定の仕事や地域で働く選択を求める設計にはしません。

建設・空き家再生の教材例

架空の校内ワーク：予算は 100 点。A 本と対話のスペース 60 点／B 段差解消 30 点／C 断熱改修 40 点。点数は学習用の模擬条件です。

最初の案を考える	誰に使ってほしい？ 何を選ぶ？ 合計点と理由：
追加の条件を知る	例：高齢者の利用が多い。冬にも使いたい。予算は 100 点のまま。さらに知りたいこと：
考えを確かめる	変える案／変えない案・その理由・見送ったこと：
自分と次の学びにつなぐ	今回、大切にしたこと・使った教科の学び・次に確かめたいこと：

選び方は一つに決まりません。働く人の助言も判断材料として扱い、自分の理由を説明します。文章以外に、図・口頭・代筆などの方法も選べます。

学校と相談して決めること

先生の願いと子どもの実態に照らし、実施する内容・条件・役割を一緒に確かめます。

時間の検討例	原案：事前 10 ～ 15 分、体験 50 ～ 100 分、事後 10 ～ 15 分、後日 5 分等。合計を学校の時数で確認してから決める。
現場と教材の確認	協力候補に判断材料・安全条件を聞き、模擬データと実データを区別する。写真・図面・取材内容の使用範囲を確認する。
分担と参加方法	学校が目標・指導・評価・実施を判断。吉田は合意した教材・調整・記録整理を担当。参加方法は子どもの実態に合わせる。
小規模に試し、改善する	初案と最後の理由、残った問いを見取る。先生の準備時間・協力者の負担も振り返り、次の実施案を改善する。

文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」（2022 年 3 月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023 年 3 月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

手引き等を参考にした独自資料です。文部科学省の公式様式ではありません。

必要に応じた伴走・相談の案内：toimanabi.com/services.html